

2014 サポーターミーティング議事録

■開催日時

2014年2月22日 18:30~20:00

■会場

静岡市東部勤労者福祉センター 清水テルサ

■清水エスパルス出席者

代表取締役社長 竹内康人

営業本部長 森田芳弘

ホームタウン推進室長 林 政彦

営業企画部運営チーム部長 森谷 理

強化部長 原 靖

営業企画部長 深沢陽介

広報室長 杉田 壮

営業企画部課長 村越 剛

アンバサダー 齋藤 俊秀

営業企画部運営担当 森 宇宙

■サポーター参加者

サポーター有志の会顧問（相談役）納谷聖司氏

サポーター有志の会副会長 成岡正雄氏

サポーター51名

《あいさつ》

竹内：

土曜日のこのような時間ですが、昨年以上のご参加本当にありがとうございます。本日の必勝祈願にお越しいただいた方もたくさんおられるかと思えます。併せて感謝申し上げます。

チームは、あと一週間で開幕ということで、今まで積み上げてきたものを、今年は結果として結びつけなければならないシーズンだと位置付けております。

一方でクラブライセンス制度が適用され、今シーズンで3シーズン目ということで、これまでの猶予期間が終わり、正式に取り入れられるということです。2年連続赤字のクラブは、待たなして黒字化しなければならない。3年連続赤字、もしくは債務超過の場合は、ライセンスが剥奪されることとなります。

エスパルスは、前期が1月末に決算ですが、厳しい決算になることが見込まれております。赤字だからといってすぐにクラブが無くなるといった心配はありませんが、2年連続赤字になった場合は、リーチがかかってしまうので、そのようなことが無いように、全社一丸と

なって今スタートしております。

皆さんからのご期待に応えられるクラブになるべく、頑張ってまいりますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

運営担当 森谷：

日頃のホームゲームにおきまして、皆様にはいろいろとご不便おかけしていることかと思ひます。今シーズンも魅力あるスタジアム作りにできる限り努めてまいりますので、皆様のご協力もよろしくお願ひいたします。

営業担当 深澤：

今シーズンもより多くのスポンサーの皆様にご支援いただき、また、サポーターの皆様には、会社の仲間、ご友人ご家族と一緒にスタジアムに足を運んでいただけるよう取り組んでいきたいと思ひております。今年もよろしくお願ひいたします。

営業本部長 森田：

一年は早いもので、いよいよ、開幕を迎えることとなりました。今年一年、みなさんに支えていただきながら、良い一年にしていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

強化担当 原：

いつもご声援ありがとうございます。昨日、キックオフカンファレンスに出席してきましたのですが、協会はワールドカップ一色という雰囲気でした。とても活気がありました。日本中がサッカーに注目する機会があるということで、我々もみなさんの力を借りながらいいシーズンにできるよう頑張りますのでよろしくお願ひいたします。今日は、忌憚のないご意見をいただければと思ひます。

ホームタウン担当 林：

昨シーズンは、エスパルスのホームタウン活動への多大なるご協力ありがとうございました。スポーツの力、サッカーの力でエスパルスに携わる街や人々を元気にしていきたいと思ひております。1年間よろしくお願ひいたします。

広報担当 杉田：

本年度も、エスパルスというチームや選手の魅力を情報発信、積極的な露出をしていきたいと思ひております。また、魅力あるコンテンツをお届けできるよう、精進していきます。本日はよろしくお願ひいたします。

アンバサダー 齊藤：

今年からアンバサダーとして活動させていただきます。改めて、22歳の時にエスパルスに加入してから、いろいろなことがありましたが、昨年引退するまで、皆さんのおかげで選手として、全うすることができました。今年から、清水に戻って一つの歯車として頑張りたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

司会 成岡氏：

お忙しい中、寒い中多数ご参加いただきありがとうございます。

必勝祈願にもご参加ありがとうございます。

不慣れなところもあるかと思いますが、皆様方にご協力いただき本ミーティングがスムーズに進みますよう、よろしくお願い致します。

《質疑応答》

サポーターA：

昨年、スタジアム委員会を立ち上げたかと思うのですが、その後の進捗を教えていただける範囲で教えていただけますでしょうか。

森田：

スタジアムについては、非常に利害関係が複雑かつ多岐に亘りますので、お話しできること、できないことがあることをご了承いただき、お話しできることをお伝えさせていただきます。

スタジアム委員会ですが、現段階では、社内で議論する組織体はございますが、今日、この場で、スタジアムに関して公式に、お伝えできることはございません。

ただ、現在のIAIスタジアム日本平は、非常に良いピッチのスタジアムですが、クラブライセンス制度『施設基準』に照らし合わせ、今後もっと厳しい基準が適用になると、ライセンスが交付されない恐れもございます。皆さんご存知かと思いますが、現状、屋根のカバー率が28%であり、一番厳しい基準ですと、屋根が全ての座席を覆わなければなりません。もう一つ致命的な不備として、VIPルームがバックスタンドにあることで、施設基準をクリアできないということも想定されます。

今後、もしライセンス基準が厳しくなった場合は、アイスタ日本平でホームゲームができないこともあり得ると思っております。

いずれにしても、改修なのか、新スタジアム建設なのかは、利害関係が非常に複雑な中でありますので、今後お話しできるタイミングがきましたら、しっかりとお話をさせていただければと思います。

新スタジアムということになりますと、世論とお金、そして、機運があるかと思えます。

機運になりますと、皆様のムーブメントが必要になりますので、そういった場合は、皆様の多大なるご協力をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

スタジアムにつきましては、全く動いていないというわけではなく、社内で様々な議論をする中で、ステークホルダーの方々ともお話をさせていただいているところですので、ご理解いただければと思います。

サポーターB：

以前、シャトルバスについて BGM を流したりビデオレターを流したりできないかという意見があった際に、しずてつジャストラインさんと設備投資にお金がかかるということでお答えいただいたかと思っておりますが、あれから 4 年が経過し、ジュビロさんでは遠鉄さんと協力してそういったバスを運行されていて、他のクラブもそのような取り組みをされていると聞いています。

選手からのビデオレターや BGM 等を流すことで、スタジアムに来るお客様を盛り上げることができ、チームのためにいい応援ができるのではないかと思いますので、ぜひ再考していただければと思います。

森田：

2010 年頃に、当時の選手のメッセージをシャトルバス内で放送していました。今後、ご要望いただいた内容を、実際にできるかどうか、しずてつジャストラインさんと確認をしていきたいと思っております。

映像となると、バスの設備上難しいかと思われます。あとは、コストの問題含め一度検討させていただければと思います。

サポーターC：

エスパルスのグッズですが、他クラブのグッズと似たり寄つたりの商品が多いと感じております。エスパルスオリジナルの商品を作ってもらいたいと思っております。以前あった、ナンバープレートのフレームを作っていただきたいのですが、そういうことは可能でしょうか。

深澤：

現在、お客様からいただいた良いアイデアを本部に集約し、販売価格や生産数量を検討しながら商品開発を行っております。現状、比較的全ての客層にあうものを優先して販売させていただいておりますが、皆様からいただいたご意見も今後検討させていただきます。

サポーターD：

ご提案なのですが、J リーグの理念、憲章の中に、総合型スポーツクラブというものがある

と思うのですが、エスパルスとして行ったらいかがかなと思います。清水はサッカーの街ではあるのですが、スタジアムに来る人がかなり固定化されてしまっているというのが引っかけかかっています。同じエスパルスというブランドの中で、バスケットボールや、バレーボール、リハビリもできる施設等をやっていくのはどうかと思っています。フットサルはドリームフィールドがありますが、それ以外のスポーツにも目を向けたらどうかと思いました。

ドイツに在住していたことがあるのですが、ドイツではサッカーはとても盛んなのですが、それ以外にも多くのスポーツをできる施設があり、同じチーム名の元、活動をしていました。そういったものができることで、同じエスパルスという名前を持つ仲間が増え、スタジアムを建設する際に、例えば地域の方々から「エスパルスには、バスケットボールでお世話になっていたから協力しよう」というようなことになるのではないかと考えています。他のJリーグではあまりないのですが、湘南ベルマーレでは、NPO 法人で運営している例があるので、ぜひ視察して参考にしたいかなと思いました。僭越ながらご提案です。

竹内：

Jリーグの理念の中に、地域のスポーツをとという文言もあり、我々も常にその視点を持っていますが、まずはできることからということで活動しています。エスパルスにはドリームフィールドがあり、サッカースクールを行っていますが、今後高齢者の方々の運動に利用していただくということは我々も検討をしています。

一方で他のチームの事例として、アルビレックスさんは、陸上のチームを支援されていたりしていますが、静岡にはバスケットボールチームやバレーボールチームがあり提携していろいろなことを行っていくことは非常にいいことだと思っています。今後のことも視野に入れながら、参考にさせていただきたいと思います。

一方で、エスパルスとしてできることをまず行って、そういったことに足を踏み込んでいきたいと思っています。

サポーターE：

有料のモバイルサイトは、年間 3600 円もかかっているが、後援会年会費の半分に相当するにも関わらず、エスパルスニュースと比較すると内容がとても薄いと感じます。

今は、試合経過はモバイルサイト以外でも見られるし、それ以外の内容がとても薄いと感じます。

遠方に住んでいるのでなかなか情報が無いので、もっと内容を充実させてもらいたいと思います。

杉田：

元々モバイルサイトを始めた時と、現在の状況が変わってきており、他の有料サイト含めて過渡期でもあると感じております。現在は、毎月一回の業者と協議したりして企画会議を行い、サイトを運営しております。皆様からいただいた感想を基に、選手の素顔や、プライベートな部分に迫る企画等をやらせていただいています。

有料の収入のあるコンテンツに特化したいという思いもありつつ、時代の流れで無料の Facebook や Twitter 等のツールが主流になってきており、展開する情報の選別等で苦慮している状況ではあります。

今後、有料サイトとして、315 円にいただくにふさわしいサイトにしていきたいと思っております。

サポーターF：

私個人的に、早朝告知活動に参加しておりまして、チラシをもらいに来てくれる人と、無視していく人と両極端という状況です。今エスパルスの情報を得ようと思うと、有料サイトからということが多いのかなと思います。スタジアムに来るのは、かなり大変なことだと思います。

エスパルスに興味のない人に、エスパルスの魅力を伝えるアプローチ方法、今後の展開をお聞きしたいと思っております。

ワールドカップイヤーであるが、それを利用して PR する方法を検討されていれば教えていただきたいなと思っておりました。

竹内：

我々も日々そこを一番苦慮しているところであります。皆様に興味を持っていただけるようにといろいろと考えております。

今年ということ言えば、ワールドカップ期間は、日本中がサッカーに注目する期間である一方で、我々のシーズンは中断になります。この中断期間をエスパルスとして有効活用して、日頃できない選手を使った企画をできるだけ多くやりたいと思っております。我々の魅力としていい選手がいるということになりますので、いろんなところに選手や監督ができるだけ出演することも考えていきたいと思っております。

サポーターG：

HP の情報の発信が遅いと思っております。

ユース所属の水谷選手・北川選手・宮本選手の 2 種登録されたという情報が、エスパルスの HP では本日アップされたのですが、J's ゴールというサイトでは、昨日発信されておりました。タイムラグに違和感があるのですが、何か特別な理由があるのであれば教えていただきたいです。情報発信の速さもクオリティということにつながると思うのですが、改善方法についてどうお考えか教えていただければと思っております。

杉田：

ユースの 3 選手の発信については、特段の事情はございません。恥ずかしいことですが社内の情報の共有のミスということになります。

情報発信の速さについては、オフィシャルサイト、モバイルサイト共に、他のサイトより早くするべく日々意識してやっており、それゆえミスが出てしまうことも出てしまっております。

今回の件については、申し開きございません。

サポーターH：

選手がエスパルスのグッズについて知らないことが多いため、選手達にもっとグッズの説明をしてほしいと思います。選手にしっかり説明することで、選手に身近な人に案内していただけたらと思います。ブランケットに関して、三保感謝デーで受付されていましたが、なぜスタジアムで受付をしないのか疑問でした。

スタジアムのビジョンで選手がグッズの CM をする、ユニフォームのようにサンプルを置くともっと良いと思いますので、ご検討ください。

携帯サイトの間違いが非常に多いので、しっかり確認をしてから掲載してほしいです。

杉田：

今後、間違いがないよう気を付けます。

竹内：

ご指摘いただいたことは、身に覚えのあることもあります。商品が選手が知ることになるということにもなりますので、選手は練習もありますが、同じ三保のクラブハウスにおりますので、選手にも情報を与えられるように工夫していきたいと思えます。例えば、選手のロッカールームに情報を掲出する等、少し考えればできることなので、努力をしてみたいです。

サポーターI：

オリジナルグッズに関して、先ほどの方のご意見に追加です。

選手はもちろんですが、他のクラブのように社長やスタッフのグッズといったように、スタジアム DJ 鈴木克馬さん、オレンジウェーブ等のエスパルスオリジナルグッズを作ってほしいと思います。

後援会費についてですが、今年会費として 8000 円払っています。8000 円という額は、ハードルが高いと思います。そのため、後援会員が集まらないと感じています。

タンブラーのようなものを使って、スタジアムの飲料の価格を下げたり、エコ活動をした

りしたら良いのではないかと思います。スタジアムで紙コップのごみが多すぎて、エコ活動になっているのか疑問に思いました。タンブラーを使うことで、ごみを減らすことになげられるのではないかと思います。

また、後援会のポイント付与をしやすいシステムを構築していただければなと思いました。

深澤：

グッズに関しては、他クラブで社長のグッズというものがありますが、弊クラブも見習い、弊社の社長グッズの需要があるようであれば、商品開発に踏み切れるかと思えます。皆様には、社長グッズが発売されたら、購入していただけますでしょうか。

(拍手)

今後の参考とさせていただきます。

それ以外のグッズについては、今後検討していきたいと思えます。

林：

後援会事務局長としてお答えさせていただきます。後援会は(株)エスパルスとは別の、社外組織となりますので、この場でお答えできないのですが、今後、後援会企画委員会や常任理事会で話をしたいと思えます。

貴重なご意見ありがとうございました。

サポーターJ：

選手の食事についてですが、Twitter等で見ると選手があまりいい食事をしていないのではないかと感じています。家庭を持たれている選手は、意識が高いのですが、若い選手は大丈夫かなというのを時々見るので、食事の指導を、クラブとして選手に対して行っていただければと思えますので、ぜひご検討ください。

原：

我々としても苦慮しているところがございます。近くのコンビニで朝食を購入しているような選手が何人かいるのが現状です。

もちろん食事の指導は行っているのですが、それだけでなく練習前に体重、体脂肪率等を計測し、意識づけをしております。プロスポーツ選手ということで、何をどのタイミングで食べればよいかという指導を行っております。

若い時に結婚する選手も多くありますが、そういった選手の奥様に栄養の講義をしなければならぬと、つい先日のキャンプの際に話をしたところでした。

この地域にはたくさんのサッカー選手を目指す子ども達も多いので、選手への教育はしっかりして、プロ選手としてしっかり見本が見せられるようにしたいと思えます。

サポーターD：

原さんにお伺いしたいのですが、先ほど話題に出た北川選手、水谷選手、宮本選手の3選手が2種登録ということで、高校生で同じチームでやっていた3人の加入が、三羽鳥以来かなということで非常に期待しています。数年後には3人がそろってピッチで躍動する姿を見たいなと思っています。

それに関連して今まで、毎年のようにユースから選手が上がってきているが、なかなか出場機会を得られず苦しんでいる選手が多かったり、これまでのポジションと違うポジションでやっていたりということが多い気がします。選手個人の問題なのか、システムの問題なのか引っかかかっていまして、システムの問題ということであれば、バルセロナや広島等、下部組織とトップチームの戦術・システムを統一していますがエスパルスではそういったことを取り組んでいらっしゃるのでしょうか。

原：

エスパルスの場合は、地元の選手を大事にしようということで、アカデミー組織からの選手をなるべく昇格させていこうということになっています。トップチームでそれまで下部組織でプレーしていたポジションと異なることは多々出ています。育成部の伊達部長や大榎監督とは、システムや戦術、トレーニング方法についてよく意見交換を行っています。トップと下部組織でなるべく同じ意識でできるようにという努力はしています。

ただ、トップでは同じポジションにたくさんライバルがいます。

少し話は違いますが、六平選手はもともと攻撃的なポジションの選手ですが、今センターバックをやっています。当然、自分ももともとこのポジションではないという選手もいるのですが、そこで何で監督がそのポジションにしているかということ、ディフェンスの能力を鍛えたいですか、相手ディフェンスに対してどのような動きが効果的なのか理解もりたいといった意図があります。その意図を理解して将来プラスになると前向きに数か月トレーニングを積むのか、嫌々そのポジションでプレーするのかでその後大きな違いが出ます。嫌々やる選手はいませんが、将来的にどうしていきたいのかということについても選手と意見交換をしながら日々トレーニングしています。今後もそういった努力はしていきたいと思っています。

また、トップチーム、ユースと地元の高校生を呼んで一緒にトレーニングするような機会を設けたいと思っています。それにより、地元の高校生のレベルアップや、サッカーの盛り上がりにつながればと思っています。

サポーターK：

浜松在住で、駅にキックオフ後に着くことが多々あり、シャトルバスが運行していないので、タクシーでよくスタジアムに行くのですが、シャトルバスの往路を最終キックオフ30分後くらいまで運行時間を延ばしてほしいと思います。また、試合終了後のゴミ拾いに参

加していた際に、シャトルバスの最終便にギリギリということがあったので、復路についても少し遅くまで運行してほしいと思います。さらに、ナビスコカップの平日後半半額に合わせて、後半キックオフ近くまでシャトルバスを運行していただければ助かります。

ユース選手に関することで、セレッソさんがやられているユースに特化した基金について、エスパルスでもぜひ進めてもらいたいと思っております。その際は、1 サポーターとしてぜひ協力したいと思います。

最後に民放のテレビ放送の回数の件で、ホームの試合ばかりではなくできればアウェイの試合も放送してほしいと思います。

ホームの試合ばかり放送すると、スタジアムに来場する人が少ないと感じています。できればアウェイの試合を放送していただくと、交通費やいろいろな事情で現地に行けない方にとっては非常に助かるかなと思います。

森谷：

シャトルバスについてですが、現状往路は、キックオフまでの運行となっております。復路については、バスに乗車されるお客様が大方乗車しきるまで運行しております。試合後は一斉にお客様がお帰りになるということで、しずつジャストラインさんには、その台数確保にも多大なるご協力をいただいております。運行時間についてもこのようなご意見があったということをご報告させていただき、できる限りの要請をしていきたいと思いません。

竹内：

セレッソさんは育成組織を NPO 法人にして、別法人にしています。

育成基金や下部組織の NPO 法人化については、エスパルスとしても研究をしています。現状、育成組織は(株)エスパルスという会社の中にあるのでどういった形になるのか、別法人にした場合はどうなのかということも含めて研究をしています。別法人にするにはいくつかのハードルもあるので、エスパルスで採用したときに、いいか、どうかを検討しています。ただ、エスパルスとして育成基金については、非常にいいことだと思っておりますので、会費を明朗にしていけば、一法人内でもできるかなと思っています。

TV 放映については、スカパー以外でも見たいとのことであるが、エスパルスの場合は、年間 10 試合を民放で放映できるという上限があります。今年も 10 試合選んで放映することになるのですが、枠の関係もあり開幕直後とシーズン終盤に放映する試合が集中することになります。当然、放映による来場者の減少はあると感じます。エスパルスとしては試合に足を運んでいただくのが一番ですが、エスパルスの試合をたくさんの人に見ていただきたいということと、ホームゲームの放映は、放映権という収入も入ってくるので、できるだけテレビ放映は行っていきたいと考えています。アウェイの試合については、静岡のローカル局での放映はルール上できないことになっています。

森田：

NHK だけインターローカルというルールで、アウェイの中継を年間数試合放映ができます。3月1日開幕戦は、NHK 静岡さんと NHK 名古屋さんが協力して中継がありますので、静岡にお住まいの方は NHK 静岡で試合中継を観ることができます。それ以外のアウェイ試合は、是非、スカパー！でご観戦いただければと思います。

サポーターL：

お客が固定化しているのではないかと感じます。以前ドリームパートナーにも協力したのですが、その使い道がよくわからなかったということがありました。また次年度、更新の案内がなかったのが残念でした。

また、ファンの方の分析というものが今後さらに必要だと思いました。昨年の御殿場キャンプのような場で様々な告知を仕掛けてもよいと思いました。

齊藤アドバイザーに、今後どのような活動を予定されているかをお聞かせいただきたいと思っています。

深澤：

ドリームパートナー、オレンジメンバーの協賛金とともに、使い道はクラブ全体のホームタウン活動や、スポーツ振興等の、選手や弊クラブのスタッフが参加させていただく活動に使わせていただいています。案内についてはご指摘通りと思いますので、今後改めさせていただきますと思います。

シーズンシート、後援会の入退会についても、毎年、お住まいの地区や年齢等分析を行っております。中断期間中だけでなく、エスパルスの魅力というものにストーリー性を持たせて、様々な場所でプロモーションをしていきたいと思っています。

齊藤：

8年ぶりにエスパルスに戻ってきましたが、離れてみてわかりますが、エスパルスというクラブ、チームそして皆さんのすごさというのを感じてきました。

ポジションを選んだり、その境遇に一喜一憂したりしていると一流の選手になれないのと同じで、職を選ばず頑張りたいと思います。前職でもそういった経験してきましたが、一つ一つしっかりやっていくと、思ってもみなかつたいいことが起きると思っています。フランス語で、「serene les petit à petit」という、一つのことをやっていくと、また別の幸せなことが起きるというニュアンスの言葉が好きです。今回、僕自身引退したタイミングでこういうチャンスをいただいて、頑張りたいと思っています。ここでの目標は、現役時代に成し遂げられなかった、リーグ戦で年間チャンピオンになるという目標を成し遂げたいと思っています。そういった目標に向け、あらゆるところで歯車となり、潤滑剤となり、

エスパルスの為に、地元の為にいろいろなことに貢献し、恩返しをしたいと思います。皆様とともにこのクラブを大きくし、子供たちの為に、未来への布石としたいと思います。皆様のお力もいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

サポーターC：

エスパルスに所属していた選手がたくさんいるかと思いますが、そういった方々、戸田選手や、齋藤選手も澤登さんのように引退試合ができないのでしょうか。他のクラブで引退した選手達はエスパルスとして引退試合ができないのでしょうか。

森田：

引退試合については、エスパルスでは、過去に澤登正朗さんだけ開催しております。公式引退試合を行うには、Jリーグのルールが定められております。澤登さんは、そのルールをクリアした方でした。また、もう一つ大事なことがあります、本人が開催したいという意思があるかどうかです。エスパルスは、おかげさまで、歴史と伝統があるクラブですので、今後も対象選手が多数出てくるかと思いますが、本人と向き合って検討する事項かと思えます。

先日のプレシーズンマッチで、前座として行った試合については、ご好評をいただきました。今回は、澤登さんが一人立ち上がり、メンバーを集めて盛り上げていただきました。この様な、静岡のサッカー文化を盛上げる主旨の試合は、今後、様々な方面と議論しながら開催を検討していきたいと思えます。

サポーターL：

娘がサッカースクールに通っていて、希望があるのですが、清水出身の選手をコーチとして採用できないかと思っています。

保護者世代は、元選手たちがコーチしてくれると、もっと子供に通わせようという気持ちにもなりますし、選手のセカンドキャリアにもつながるかと思えます。今は、埼玉出身のコーチがやっていたりします。

元選手がいたら親も預けるのに安心しますし、1か月に1回現役の選手とボールを蹴る機会があれば、子供たちも目標が定まってもっと頑張れるのではないのでしょうか。

子ども達に夢を与えて、地域密着を謳って活動する以上は、子供たちの世代の指導者からエスパルス出身者を固めていってもらえたらと思えます。そういったことが、下部組織を強くすることにつながるし、スクールからのプロをもっとたくさん育てることにつながると思えます。

竹内：

スクールのコーチには何人かOBもいますが、もちろんOBを増やしたいと思っています。

一方で、引退後の本人の生活設計がありますし、本人がやりたいというのが大事です。また、スクールコーチということで、お子様を預かって教えるということなので、それに値するものを持っていないといけないということがあります。

昨年、選手がスクールに顔を出すようにという話を、選手達にはしました。チームのロッカーには、スクールの予定表を張ったりしています。

選手が忙しくていけないというのは、少し甘えもあるかと私は思います。今年は、強制という形になっても、選手にスクールに顔を出したいと思っています。

サポーターM：

早急に検討をしていただきたいのですが、開門 30 分前に列整理を行っていますが、真夏にぎゅうぎゅうに詰められて、体調を悪くされる方が出てくると思います。実際、知人で試合途中で帰られた方がいたのですが、何とか考えていただければありがたいと思います。

森谷：

入場前の待機ルールについては、ボランティアの皆さんと前年の反省を踏まえ、協議しています。30 分前の列整理がないと、横から入られてしまう等、アンフェアな状況が生まれるということを懸念し、実施をしています。ただし、小さなお子様、ご年配の方、トイレに行きたい、といった方には柔軟に対応していきたいと思っています。特にご気分が悪くなられた方は、係員にお声がけをかけていただければ、対処させていただきますので、よろしく願いいたします。

サポーターN：

席詰めについてですが、15000～16000 の来場者を越えた辺りから、席を探される方が多くなります。大体後から来て、席を探される方は初心者の方が多いかなと思うのですが、エスパルスとしてこれから取り込んでいかなければならない方だと思うのですが、そういった方が席をなかなか探せないという状況だと新規のファン獲得に影響が出てしまうと思います。そういった意味でも。現在アナウンスをしていただいています。ビジョン等でも席を詰めるように告知した方がいいかと思います。さらには、「空いている席があったら声をかけてあげてください。」というような運動をできればと思っています。親切に声をかけてもらったというのがいい思い出になると思います。夏場に、草サッカーの参加しているお子さんたちにも、席を確保してあげる等、いい配慮をしてもらえたらうれしいです。

深澤：

ご指摘ありがとうございます。より多くの方にお越しいただけるよう、係員やビジョンを使っての告知、また、ご来場の皆様にもご協力いただき、より多くのお客様が席に座れるよう努めたいと思います。

草サッカーに関してもゾーン確保等、今後検討していきたいと思います。

成岡氏：

今の意見は貴重な意見だと思います。

クラブ側にご意見ということでしたが、今の件は我々サポーターのモラルの問題だと思います。我々がそのような気持ちをくみ取って、一人でも多くのサポーターを取り込んでいかなければと思います。今後赤字経営が続くようなことがあれば、愛するクラブの存続の危機にもつながってしまいます。来場者の増加は経営する上では非常に大きな柱だと思います。皆さん、一緒になって協力しながら頑張っていきましょう。

サポーターD：

それに関して、普段スタジアムにいらっしゃる皆さんにご提案なのですが、各団体の方々はスタジアムに来るのが早いかと思いますが、どこの席が空いているというのがわかるかだと思います。例えば、各団体一人ずつ出て、席が見つからない方々向けに、席に案内をしていくという活動をしてよいかと思いました。

《質疑応答終了》

納谷氏：

皆さんの意見を代弁させていただきます。ゴトビ監督は4年目です。大学で言えば卒業になります。いい成績で納めてもらいたいと思います。

市民球団という伝統を忘れずやってもらいたいと思います。

選手については、エスパルスで燃えつきる気持ちで戦ってもらいたいです。

ソチオリンピックを観ていて、おもしろいことがありました。日本人選手でメダルを取ったり、活躍したりしている選手は英語を身に着けています。エスパルスを見ていて、選手は4年間で英語を勉強したのだろうか。最初は言葉がわからないという話もありましたが、一番語学がうまくなったのが通訳ではまずいです。

選手には、しっかりと英語を身に着けてもらって、意思を伝えられるよう、クラブも指導してもらいたいと思います。

サポーターはどうやってチームと付き合いしていくかということですが、勝てばみんな集まってきてほめてくれます、激励してくれます。本当に激励してもらいたいのは、負けた時です。負けて小さくなった状態で選手達には前に出てきてほしくありません。負けても堂々と胸を張れるよう、闘った、勝負したという試合をしてくれたら、選手のその気持ちにサポーターは答えなければならないと思います。サポーターはそういう気持ちで今年一年、

選手を激励してもらいたいと思います。応援団が怖いなんて言われたら最低です。お客さんが減る原因になりかねないです。一人の暴力が、まじめな 100 人のサポーターを遠ざけるかも知れません。我々は先頭に立って応援をしているのだから、そういったことを十分考えて、エスパルスのために今年も汗をかきましょう。
よろしくお願いします。

《終了》